



2025年8月10日発行

社会福祉法人 龍鳳ライフパートナーこぶし  
〒203-0004 東久留米市氷川台 2-31-19  
TEL:042-470-2385 FAX:042-470-2386  
清瀬事業所/ふわっとん  
〒204-0013 清瀬市上清戸 1-15-18  
TEL&FAX:042-497-9481  
<https://www.fukushiryuhoh.or.jp/kobushi/>

何が入っているのかな?ドキドキワクワクの瞬間です!



## 受け継ぐ

理事長 貝沼 寿夫

今年の暮れには、ライフパートナーこぶしが運営を開始して丁度25年になります。ここまで無事運営させていただけたのも、皆様のご協力ご支援と感謝申し上げます。また、まもなくお盆を迎えますが、終戦から80年と言う、こぶしにとっても日本にとっても大きな節目の1年となります。先の大戦は、私の親世代が子供のころで、私自身戦争のことは、見たり聞いたりした程度の知識しかありません。私は、終戦して20数年後に生まれ、その時点ですでに東京オリンピックは開催後であり、新幹線も東京・新大阪間で開通していました。今、この歳となつては20数年前と言え、つい最近のことのように思えます。戦後の街の景色の変貌ほどは、今はもちろん技術などの変化はあるものの、周りの景色はそれほど変わっていない印象があります。

日本のこれまでの2600年の歴史で大きな転換期となった先の大戦、そしてその後の大きな変貌の理由なるものを知りたいと思いました。そこで数年前から、靖国神社、鹿児島県の戦争特攻記念館、広島市の平和記念資料館、沖縄の戦争遺構などを巡りました。そのどれを観ていても、戦争による悲しさやその当時の方々の壮絶さなどは、自分の頭や胸の中では、簡単には想像することが出来ませんでした。ただ一つだけ理解できた、理解したいと思えたのは、今こうして当たり前に生きていられるのは、当時の人々の恩恵を受けている

ということなのです。当たり前であることは、全く当たり前ではありません。次の日がやって来るか分からない日々の中、自国の未来や次の世代の人のために、自らの命を投げ打って立ち向かう人たちがいてくれたからです。その人たちは、その先を生きる私たちに受け継ぎたいものがあつたから、そうした行動が取れたのではないのでしょうか。

さて、ライフパートナーこぶしも、何とか25年無事に運営を続けてこられました。もちろんこれまで順風満帆ではなく、今でも、まだまだ課題はいくつもありますが、支援が上手くいかないとき、離職に悩まされたとき、そうした苦しい時期を乗り越えてくれた職員、利用された方とそのご家族、地域の皆様など多くの方々の恩恵のおかげです。それらを今いる私たちは、建物を含めてこれまで蓄積してきた様々なものを受け継いでいく義務があります。また10年後20年後も安心・安定して、こぶしが存続していくために、今いる人や今後やってくる人たちに法人として受け継いでいくものを明確にしていきたいと考えています。

私たちは、日本人として生まれ、この仕事を選び、多くの人からのバトンを受け取って、今があります。生きていく働いている限り、先人たちのように誰かからのバトンを受け継ぎ、それを1番良い位置で次の人に受け継いでいく義務が、私たちにも課せられていくと改めて感じています。

写真についてはご本人(代理人又は成年後見人)の同意を得て掲載しております。



## ～新メニュー【ココナッツババロア】～

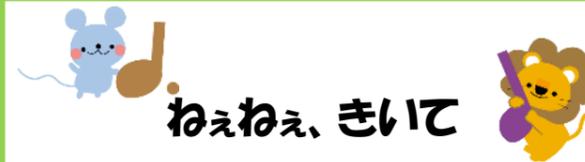
暑い日差しが注ぐこの夏にぴったりな新製品をご紹介します!

皆様、右の写真をご覧ください。

なんとも美しい色合い、、、

たっぷりのココナッツババロアに自家製マンゴージャムを贅沢にかけた一品となっております。

ココナッツババロアの優しい甘さ、そしてプリンとはまた違うふわっとした食感が癖になります♪濃厚なマンゴージャムとの相性抜群!ぜひご賞味ください(^)/



## ねえねえ、きいて

生活支援員 小畑 満月

利用者さんは時折、なんの前触れもなくニコッと笑顔を見ることがあります。なぜ、笑っているのか、楽しい、嬉しいのか、無意識のうちに笑っているのか、本人にしか分からないことですが、ただ言えることはその笑顔がとても眩しく、自分も利用者さんの様に笑ってみたいと心から思います。まずは口角を上げて笑顔の練習!



## キラリ☆と光るこの一枚



風船を持った瞬間ニヤリ、中々見ない笑顔が見られました(^)/ (佐藤 里胡)

## 「学べている事」に、目を向けたい

施設に入所中の義母の面会に行った時の事です。私たちが帰る時は、一緒に食堂に向かいます。歩行器を押して自分の席に座ってもらった後、私たちはエレベーターへ行きますが、エレベーターは暗証番号を押さなければ操作できないので、職員に声をかけます。

先日、職員が来てくれるまでの間、夫がエレベーターのボタンを連打していました。それを義母は見ていたのでしょうか、歩行器を使わずに凄い速さで「それじゃ開かないのよー」と言いながら歩いてきたのです(転ぶのではないかと、内心ヒヤヒヤしました!)

最近では会話の辻褄が合わない事も増えていますが、エレベーターの操作のルールは覚えていて、私たちに「教えてあげなくちゃ!」と知らせようとしてくれたのです。

自宅で生活していた頃とは違う環境の中で、小さな事だけれど日々学びがあるのだな、と再発見しました。こぶしでも、利用者さんの「学べている事」に目を向け、一緒に喜んでいきたいなと思った出来事でした。

看護師 新井 朋子

# フォトニュース ～7月の様子～

## 支え合い成長できる場所

### ♪日帰り旅行♪ ～サンシャイン水族館～

### 日常あれこれ



この記事を書いたのは7月下旬のことですが、ちょうどその時期に小学校へ通っている息子が夏休みに入りました。夏休みの宿題で初めて読書感想文が出たとのことで、私が作成のサポートをすることとなりました。本は読み終わったとのことだったので、書くところから一緒に取り組み始めたのですが、最初に「あらすじ」を書いてみようと言ったところ「あらすじって何？」と聞かれました。「そこからか…」と、長期戦を覚悟した一場面でした。

思えば、普段大人が何気なく使っている言葉や考え方も、子供にとっては初めて触れる言葉や、良く理解出来ていない考え方であることが多いです。「あらすじ」の意味はもちろん、「感想」ってどうやって書くの？というところから丁寧に伝える必要があることに気付かされました。また、相手の理解度に合わせて説明したり、モチベーションを維持したまま書ききれるようにしたりと、配慮することはとても大変ですが大切なことだと改めて実感しました。

そんな中「教える」ということについて、こぶしのことを思い浮かべました。本年度、こぶしには新人職員が入職し、日々色々なことを覚えながら成長しています。そして、その成長の背景では先輩職員たちが日々指導やフォローにあたっています。普段の業務にプラスして、人に支援の知識、技術、ビジネスマナー等々を伝えるOJTは決して簡単なことではありません。

教えることは大変なことです。しかし同時にそれはとても大切なことでもあります。誰かに教えることで、改めて自分の理解度を確認・整理できます。また、自分自身に不足していることがあれば、学びなおす必要も出てきます。新人職員が成長するのと合わせ、先輩職員も成長し、学びを深めていくことができます。

こぶしでは互いに支え合い成長できる場を大切にしています。職員だけでなく利用者さんも含め、お互いに学び合う関係を大切にしながら、より良い支援が提供できるようにしていきます。

サービス管理責任者 剣持 勇気

### 法人本部よりお知らせ

令和6年度決算報告については、龍鳳のホームページおよびWAMNETの社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム（法人名 龍鳳で検索）で開示しております。

### 👍 Point 栄養情報 ワンポイント「夏野菜で夏バテ予防」

近年は暑い時期が延び、10月頃まで暑い日が続いていますね。夏が旬の野菜には身体を冷やす効果があるもの、ビタミンが多く含まれているものも多く、体の調子を整えてくれます。今回のワンポイントは夏野菜の栄養とおすすめ調理法です。  
管理栄養士 小林 由記子



ゴーヤ

ビタミンCが豊富ですが、水にさらしすぎると栄養素が流出するため短時間に留めましょう。たんぱく質と一緒に摂れる、定番のゴーヤチャンプルーがおすすめ。



オクラ

丸ごと茹でることで栄養素の流出が少なく済みます。おひたし等はもちろん、スープなどもおすすめです。ねばりを活かして、納豆などと合わせてもいいですね。



ズッキーニ

キュウリに似ていますがカボチャの仲間です。油といっしょに摂取することで多く含まれるβカロテンの吸収率がアップします。天ぷらや、ひき肉をはさんではさみ揚げも美味しいです。



### “やりたい” “やってみよう” を受け止める

わが子が今年から小学1年生となりました。ピカピカだったランドセルや筆箱は既にもう薄汚れています。毎日の頑張りがそこから伺えます。

先日、私が大の苦手な虫（バッタ）を、「いきものがかりになった」「虫を育ててみたい！」と、勇気をもって持ち帰ってきたのです。悲鳴をあげたいのをグッと堪え、「やってみよう」と一緒に虫かごを用意しました。（心の中では叫びました）

龍鳳に入職して9年目、ありがたいことに後輩職員の人数の方が多くなってきています。指導・助言を行う場面も多々あります。そんな中、大事にしていることは、職員1人1人の「やりたい」「やってみよう」という心意気です。支援をしていると、「苦手だな」「失敗したら嫌だな」という事がたくさんあります。それでも勇気をもって実践してみることを力いっぱい後押しできるよう、何かあったら頼りにされる先輩職員であるよう日々精進しています。

生活支援員 吉井 友美